

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173501131), 法人名 (医療法人社団 上田病院), 事業所名 (グループホームゆうゆう (花)), 所在地 (室蘭市日の出町2丁目2番地27号), 自己評価作成日 (平成34年11月1日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは3つのユニットで構成されており、各ユニットが二階建ての住宅のように吹き抜けになっていて天井が高く明るく開放的になっています。リビングから2階へ続く階段があることで下肢筋力の維持に繋がっています。各ユニットは全て廊下で繋がっていて、行き来が自由な為他ユニットの入居者さん同士の交流ができます。医療法人が母体であることから、緊急の体調変化にも対応が可能であり、往診や訪問看護の体制もとっていますので入居者さんと御家族から安心してもらえています。毎年季節ごとにお花見や水族館、ぶどう狩りなどの行事や同じ敷地内にある同法人のグループホームとバーベキュー等の行事を合同で行い、入居者さん同士や職員も交流を図っていますが、コロナ禍で中止となっています。普段は当たり前に行われている面会や外出・外泊も制限させて頂いている中で、入居者さんたちのストレスを上手く発散できるようユニット内で様々なレクリエーションを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0173501131-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (令和4年12月14日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平成15年に3ユニットで開設しており、近くには商業施設や交通機関があるなど利便性に優れた住宅街に位置している。地域住民とは良好な関係を築いているが、コロナ禍により相互に自粛を余儀なくされている。家族は窓越しやリモート面会、電話、手紙等で利用者と関わる機会があり、さらに誕生会や防災訓練等の写真とコメントを記載した事業所便りや、個別に毎日の様子を記録した月次報告書が届けられており、安心感が得られる取り組みを行っている。外出も、玄関先での日光浴や菜園の野菜を眺めたり、近くの公園まで散歩、受診帰りに景勝地を訪れている。身体機能維持のため体操や階段の昇り降り、居間で歌ったり雑談したり、居室ではベッドに横になったり、雑誌を読むなど、自分の時間を大切に過ごせる環境を整えている「グループホームゆうゆう」である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・ケア理念は玄関入口に掲示している。朝の申し送りやユニット会議などで、共有しユニット毎に目標をたて実践につなげる話し合いをしている。	系列事業所と共有の運営とケア理念に加え、楽しく、安楽になどのユニット目標を策定している。事業所内に掲示し、理念カードを携帯することで意識が高まり、理念の実践がスムーズに行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年はバーベキューや避難訓練などホームの行事に町内会の方々が参加し、春・秋の町内会のごみ拾いやお祭りなど町会行事にも参加していたがコロナ禍により制限されている	開設以来から交流がある町内会とは良好な関係を構築している。コロナ禍により相互に自粛しているが、敬老の日には町内会から祝いの品が届いている。町内会館で開催された市主催の出前講座では施設長が講師を務め、認知症の理解に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の方々や家族の方に運営推進会議へ参加して頂きグループホームでの実践を紹介しているがコロナ禍の為運営推進会議は書面での報告になっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、家族や地域の方や包括支援センター・市役所等参加、意見や要望を聞き課題として取り組み、同時に身体拘束、虐待防止委員会も行っていたがのコロナ禍の為会議は書面での報告になっている	コロナ禍により会議は職員のみで行い、利用者や職員の状況、活動内容、ヒヤリハットや事故報告、身体拘束の有無等を推進委員に書面で届けている。職員間においては、感染症防止や防災対策、運営状況等で活発な意見交換が行われている。	会議は意見や情報交換の場でもあることから、報告後に各推進委員の意見等を収集し、議事録に載せるなど、事業所への理解が深まる取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	例年は各種の会議や研修に参加し交流し、運営推進会議にも参加してもらい日常の実践を報告しているが現在は電話やメールでの連絡になっている	行政との関係もコロナ禍により制約があり、殆どの事柄は電話やメールでやり取りをしているが、事故発生時は、電話後に担当窓口へ報告書を提出している。市主催である認知症の啓蒙活動には快く協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けている。委員会では現状報告や今後の対応等話し合い、コロナ禍の為制限されているが都度身体拘束に関する研修会などに参加している。2ヶ月毎の運営推進会議には身体拘束・虐待防止委員会の現状を文書で情報を提供している。	適正化委員会や研修会を適宜開催し、さらに年1回職員のストレス度を把握するなど身体拘束をしないケアの実践に繋げている。動画での事例は、職員自身のケアを見直す機会となっている。電子音報知器は、家族の同意を得て使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するリモートの外部研修に参加し、防止に努めている。職員の研修にも虐待について取り上げ学び、又職員間でも話し合いを行い虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット会議などの時間を利用し職員全体へ権利擁護に関して学ぶ機会を設けている。成年後見制度を利用している入居者さんが以前にいた事がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分時間をかけて全項目を読み上げ説明し、不安や疑問などを話してもらえよう努め理解納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。意見、苦情があった場合は速やかに施設長に報告し同時に職員間で共有し検討改善に努めている。	家族には毎月、行事や日常の一コマを撮った写真、行事案内や面会の現状等を載せた「お便り」と利用者の日々を記録した「月次報告書」を送付している。利用者や家族からは関わりの中で意見を聴取し、必要時は職員間で協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や毎日の申送りなどを利用し職員から意見や提案を聞く機会を設け検討し反映している。	会議は、事前に収集した職員の意見を踏まえ、運営上の事案について協議している。職員は向上心をもって各業務を担っているが、職員アンケートや上司による個人面談等で本音を吐くことができ、ストレスが軽減されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為に研修に参加している。職員に担当業務の割り当てを行っている。個別の面談の実地があり昇給もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた職員研修の実施。又、内部研修を行い日常のケアに活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会はリモートで参加して情報の交換を行っている。コロナ禍の為市内のGH主催の研修会等への参加は制限されている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族から書面・面談等で情報を収集し、思いを探り不安なく暮らしていけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを密にし話しやすい関係、環境作りに努めている。不安・要望がある際には出来る限り解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かなアセスメントと職員間の情報共有で状況に応じた適切な支援を行い、他のサービス利用を含めて見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重したうえで、職員と共に出来ることをしてもらいながら共同生活の一員として共に生活し穏やかに過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを大切にしながらコミュニケーションをとり情報を共有していく事で、共に本人を支え、安心して生活することが出来るよう支援する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段は面会、外出、外泊などは自由に行っているが、コロナ禍の為制限を家族、本人に説明し取り組んでいる。家族とはリモートや窓越しでの面会を行っている	現在、利用者と家族との関わりは窓越しやリモートでの面会、手紙や電話のみとなっている。訪問理美容師と利用者は馴染みの関係にあり、言葉を交わしている。外来受診後に要望の景勝地を回って帰路についている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士の関係を日常生活の中で把握し、リビングテーブルの座席などを配慮している。出来るだけお互い関わり合えるよう配慮し見守りを行っている。気の合う入居者さん同士の自主性を重んじている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への転居による退去の場合、受け入れ先と十分に連携し情報を提供を行い本人や家族が安心して暮らしていけるよう支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動、表情、家族の要望より意向を引き出せるように努めている。意思疎通が困難な入居者さんの場合は家族から情報を得て本人に添ったケアマネジメントを行うよう努めている。	利用者の思っていること願っていることは言葉や振る舞い等から察知したり、自己決定を尊重している。家族から伝え聞いた「土の上を歩きたい」との要望に応え、公園まで散歩に出かけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話を聞く事や医療機関や他事業所からの情報収集により本人の慣れ親しんだ生活や経過等の把握し、現在の暮らしに反映されるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の送りやりやユニット会議等で一人一人の現状について話し合い職員間で共有し現状の把握し、本人が自分らしく暮らせるようケアを行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、サービス担当者会議、ユニット会議等を活用しモニタリングを行い、日常生活の中で見られる本人の課題を職員内の意見等を活かし介護計画に反映し作成している。	ケアプラン作成時は、職員全員で評価や課題分析を行っている。利用者の願いや家族の思いに沿った支援目標になるよう会議で話し合っている。目標の達成度は、介護記録で確認できる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って記録の記載を行い、提供する支援に番号を付け記録の際に同紙に記入している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から要望を聞き入れ、対応し本人を尊重できるよう柔軟な支援、サービスを行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会行事に参加している。地域の子供達やボランティアの受け入れ、町会と連携した防災訓練の実施を行っていたが、コロナ禍の為、防災訓練は施設のみで行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し継続して医療を受けられるよう支援し、適切な医療の下、健康を保てるよう努めている。	受診先は自由に選択できるが、現在は利用者全員が母体である医療機関から月2回、往診を受けている。他科受診は基本的に家族支援とし、診断結果を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回医師の往診があり、訪問看護の体制をとっている。個々の身体状況に変化が見られた時は医師に報告し、必要に応じ訪問看護や受診等を受けることができる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護添書を提出し情報を提供している。入院中は面会時や病院関係者と連絡を密に取り、情報収集を行い退院後の生活がスムーズに行えるよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後に本人や家族から話を聞き終末期について覚書を作成し説明をしている。主治医の指示の元、本人や家族の希望に添えるよう配慮している。	入居時に医療連携体制を指針に沿って説明し、終末期の意向を含め同意書を交わしている。コロナ禍のこともあり、重篤時は母体の医療機関に移行している。コロナ禍以前は関係者と情報を共有し、利用者を尊重した最終支援が行われていた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアルを設置している。定期的にマニュアルを用いシミュレーションや内部研修を実施している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に2回実施している。日中や夜間の想定をしたり職員全員が対応できるように配慮している。コロナ禍の為施設のみで行い消防へは連絡のみ行うようしている。	年2回、日中・夜間想定避難訓練を計画し、利用者参加の夜間想定訓練を終えている。地震、津波想定訓練やシミュレーションを行い表出した課題を掘り下げている。災害時の必需品は、発電機始め随時準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する事の発言や日常の言葉使いに配慮し一人ひとりの尊厳を尊重するように対応している。	利用者の性格やペース、整容等も含め人となりを理解し、意向を尊重した支援に努めている。特に入浴や排泄時は、羞恥心に配慮している。管理者は、常に正しい接遇のあり方を説いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の日常生活の中での表情や会話、様子から本人の思いや希望を汲み取り声をかけ、自己決定できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の体調や様子を見て、本人のペースに合わせて希望に沿った穏やかな日々を過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の身に着ける衣類を選択してもらったり、鏡の前で整容し身だしなみを意識できるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳等をしてくれた時には感謝の言葉を添え話をしながら行っている。個々の能力に応じて、もやしのひげとりや食器洗い等出来る作業を職員と共にしてもらっている。	献立は一汁三菜を基本とし、麺やパン類、丼物、炊き込みご飯、代替食、菜園の野菜を取り入れ、利用者の食欲が満たされるよう努めている。誕生日の祝い食は希望に応じ、ケーキも用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量を把握し記録している。それぞれの状況に応じた食事形態で提供し、食事量が少ない時には医師の指示を受け栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、義歯洗浄、うがいを行っている。それぞれの入居者の状況に応じて介助し、家族の希望がある際には定期的に歯科衛生指導を受けている入居者さんが居た事もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう排泄パターンを把握しながら時間を見て誘導し、排泄の失敗を出来る限り減らせるよう支援を行っている。	利用者が尿意や便意がある限り、トイレでの排泄を基本として支援している。複数介助やベッド上での支援、意向で夜間のみポータブルトイレを使用、状態に応じた衛生用品の使い分けで失敗の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し日々の排便状況を把握している。排便が困難な際には腹部のマッサージや下剤の調整、バナナや乳製品麦飯等の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に合わせて入浴の声かけを行っている。当日の入浴で拒否がある際には声掛け日を変え入浴している。ゆっくり入浴したい方にはくつろいでもらえるよう余裕を持って対応できるよう努めている。	入浴は毎日準備しているが、午前、午後に関2回を基本とし、利用者の歌を聞いたり、雑談しながら支援している。ひとり入浴者を見守り、2人介助、足湯をしてのシャワー浴は脱衣所を暖かくし、浴室で身体を拭くなど、湯冷めに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間には安眠できるよう配慮している。日中は一人一人のその時の状況に応じて過ごしているが様子を見て臥床を促し、場合によっては介助し、居室又はリビングのソファなどで休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬の薬品名、用法、用量をまとめた表を作成している。特変時にはすぐに医師に報告し指示を受けている。処方薬の確認は毎日の申し送りや申し送りノートを活用し確認し職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみは毎日できるよう支援している。体操、日光浴、ドライブなど気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴には個別でその日の体調を診てそれぞれの希望で外出している。現在、外出等は控えてもらっている。	外出も制限がある中、玄関前での日光浴や菜園の野菜を眺めたり、近くの公園まで散歩、外来受診後に景勝地をドライブしている。身体機能維持のため体操や階段を昇り降りし、また、室内レクを充実して気分転換に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の思いを大切にし紛失の可能性等を考慮し、家族への説明を行い相談し本人がお金を所持するか決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望がある時にはGH内に設置してある公衆電話を使用、又はユニット内の電話にて話ができるよう支援している。携帯電話を所持し家族と連絡をとっている入居者さんもいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けになっていて窓からの光や風が心地よく感じられる作りになっている。ソファやテーブル、テレビの位置を居心地よく過ごせるよう配置に工夫をし、雛人形や五月飾り等季節ごとの行事の飾りつけや写真や入居者の作品をユニット内に飾っている。	利用者は居間で一日の大半を過ごすことが多く、清掃や温湿度、採光、音の調整、臭いへの配慮に努め、他の共用部分も含め心地良い生活環境を整えている。壁面にはクリスマスツリーのタペストリーや日めくりカレンダー、写真、利用者のレクでの作品等を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々様子や本人の意思を聞き、過ごしたい場所を選択してもらい、思い思いに過ごせるような配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が今まで使用していた馴染みの家具や家族の写真、仏壇を持ち込む方もいて、家具の配置も思い思いに行い本人の過ごしやすい生活環境を整えている。	8畳の居室にはベッドやチェスト、棚、ナースコールが備えられており、馴染みの調度品や生活用品等を持ち込んでいる。利用者は家族が差し入れた雑誌を居室で読むなど、自分の時間を大切に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内に階段がある構造なので自然と階段昇降で体力や脚力の維持に繋がり、GH内がオープンな環境であるため、様々なユニットへ出かけることで気分転換にもなっている。現在は感染対策の為ユニット間の出入りは制限している。		